

企画・執筆者紹介 (五十音順)

石川遙至 いしかわ・はるゆき

早稲田大学文学学術院 心理学教室

1989年群馬県生まれ。2012年早稲田大学卒。2014年早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了、同年より早稲田大学大学院博士課程に在籍。2016年より日本医科大学看護専門学校非常勤講師、2017年より日本工業大学非常勤講師。専門は臨床心理学。

「気晴らし」による抑うつ気分への介入研究を行っている。論文:「The Relationship Between Decentering and Adaptiveness of Response Styles in Reducing Depression」(Mindfulness, 2017)「反すうの対象への注意を伴う気晴らしが気分と反すう対象の評価に及ぼす影響」(Journal of Health Psychology Research, 2018)、など。趣味は切り絵と合唱。

市原 真 いちはら・しん

札幌厚生病院 病理診断科

1978年北海道生まれ。2003年北海道大学医学部卒。2007年北海道大学大学院医学研究科分子細胞病理学博士課程修了。国立がん研究センター中央病院病理部にて半年間の任意研修後、2007年10月より札幌厚生病院病理診断科。病理専門医、臨床検査管理医、細胞診指導医。

Twitter: @Dr_yandel

上園保仁 うえぞの・やすひと

国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 1959年宮崎県生まれ。1985年産業医科大学卒、1989年同大学院修了。医学博士取得。1991～93年まで米国カリフォルニア工科大学生物学部門留学。2004年長崎大学大学院医歯薬学研究所内臓薬理学准教授。2009年より現職。2015年より国立がん研究センター先端医療開発センター支持療法開発分野分野長を兼任。専門は分子神経薬理学、緩和医療学。

著作物として、『Q&Aでわかるがん疼痛緩和ケア』(じほう、2014年)、『長生きするがん治療』(ワニブックス、2015年)、『今すぐ始めたい婦人科がん領域における緩和医療の実践』(金原出版、2017年)などがある。

大曲陸恵 おおまがり・ちかえ

NPO法人全国自死遺族総合支援センター／尚美学園大学講師

1978年神奈川県生まれ。2003年12月、カリフォルニア州ミルズ大学大学院修士課程修了(Child Life in Hospitals and Community Health Centers with Children who have Medical Needs専攻:教育学修士)。2016年9月、ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科社会福祉学専攻後期博士課程修了(社会福祉学博士)。静岡県立静岡がんセンター、国立がん研究センター中央病院、聖路加国際病院、国立国際医療研究センターでチャイルド・ライフ・スペシャリストの活動を経て、現在は尚美学園大学で講師として子ども学を担いながら、全国自死遺族総合支援センターで「大切な人を亡くした子どもとその家族のつどい」の運営委員として活動している。これまでの著作に『子どものグリーフの理解とサポート』(明石書店、2017年)。

加藤雅志 かとう・まさし

国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科／社会と健康研究センター

がん対策情報センターがん医療支援部長

日本精神神経学会専門医、精神保健指定医

川上和宜 かわかみ・かずよし

がん研有明病院薬剤部 主任

1974年岡山県生まれ。2000年昭和薬科大学大学院薬学研究科修了。2000年4月よりがん研有明病院薬剤部勤務、2011年公益財団法人がん研有明病院薬剤部主任、2013年昭和薬科大学にて「Paclitaxelによる末梢神経障害重篤化のリスク因子解析及び基礎的研究」にて博士(薬学)取得(田口恭治教授)。2015年より現職。研究テーマは、抗がん剤による末梢神経障害、経口抗がん薬のadherence。これまでの著作に『今日の治療薬』(南江堂)、『がん化学療法レジメン管理マニュアル』(医学書院、2012年)、など。

川口 崇 かわぐち・たかし

東京薬科大学 医療実務薬学教室

1977年生まれ。2001年東京薬科大学卒。2003年同大学大学院修士課程修了。昭和大学病院に勤務後、2009年に現所属の助手となる。2015年に博士号(薬学)取得し、同年より助教。職種を超えてがん、緩和領域を中心とした臨床試験・研究の実施支援をしており、臨床アウトカム評価、意思決定、有害事象評価などを研究している。薬学教育では薬剤師向けの臨床推論を手掛けており、著作物に「薬剤師のための臨床推論」(じほう)がある。

河村一郎 かわむら・いちろう

大阪国際がんセンター 感染症内科 医長 兼 感染症センター長

2002年名古屋大学卒。感染症医、Infection Control Doctor。名古屋大学医学部附属病院中央感染制御部、静岡がんセンター感染症内科を経て、大阪国際がんセンターで感染症内科を立ち上げ。がん診療にかかわる感染症コンサルテーションと感染対策に従事。

これまでの著書国、『感染症診療の手引き新訂第3版』(シーニュ、2017年)、『がん患者の感染症診療マニュアル改訂2版』(南山堂、2012年)など。

河村裕美 かわむら・ひろみ

静岡県庁・認定NPO法人オレンジティ理事長

1967年静岡県生まれ。1992年日本大学法学部法律学卒。社会福祉士・精神保健福祉士・PRプランナー。1999年7月結婚、1週間後に子宮頸がんを宣告され治療。闘病中の経験から、患者サポートの重要性を認識し、2002年にセルフヘルプグループ「オレンジティ」を設立。患者サポートに加え子宮頸がん検診などの啓発を行なっている。子どもが産めなくなったが、児童相談所で児童福祉司として勤務してきた経験から里親登録し、特別養子縁組にて子どもを授かり子育て中。これまでの著作に、『グローバルマザー——子宮頸がんと闘う女性たち』(静岡新聞社、2012年)。

北野滋久 きたの・しげひさ

国立研究開発法人がん研究センター中央病院 先端医療科

先端医療開発センター新薬臨床開発分野・免疫療法開発分野

1972年大阪府生まれ。1998年三重大学医学部卒、同大学内科学第二講座に入局、同科関連病院にて一般内科研修を行なう。2001年、三重大学大学院医学系研究科入学、造血器腫瘍と固形腫瘍の診療を行ないつつ、新規がん免疫療法の臨床試験、患者免疫応答解析の研究に携わる。2005年、同大学大学院医学系研究科 遺伝子・免疫治療学講座の助手。2008年、同血液・腫瘍内科助教。2009年、Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, Ludwig Center for Cancer Immunotherapy (Drs.Jedd Wolchok and James Allison)に留学、免疫チェックポイント阻害剤(抗CTLA-4抗体療法、抗PD-1抗体療法など)の新規がん免疫療法の開発、臨床試験登録患者の免疫応答解析を主としたトランスレーショナルリサーチ(TR)に携わる。2013年帰国、国立がん研究センター中央病院に赴任し、新規がん免疫療法をはじめ各種新規薬物療法の早期臨床試験、TRを行なっている。専門は腫瘍内科学、腫瘍免疫学、がん薬物療法(特にがん免疫療法)。

國頭英夫 くにとう・ひでお

日本赤十字社医療センター 化学療法科 部長
1961年鳥取県生まれ。1986年東京大学医学部卒業。国立がんセンター中央病院内科などを経て現職。日本臨床腫瘍学会協議員・日本肺癌学会評議員。
これまでの著作に里見清一名義で『偽善の医療』（2009年）、『衆愚の病理』（2013年）、『医師の一分』（2014年、すべて新潮新書）、『誰も教えてくれなかった癌臨床試験の正しい解釈』（中外医学社、2011年）など多数。

公平 誠 こうだい・まこと

公平病院 腫瘍内科
1979年埼玉県生まれ。2004年に千葉大学を卒業し、千葉大学などでの研修を経て、2006年がん研有明病院化学療法科レジデント。2010年に国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科がん専門修練医、2011年～同医員、2014年～希少がんセンター兼任、2016年より医療法人慈公会公平病院病院長。2017年千葉大学大学院卒業。専門は腫瘍内科であり、Community Oncologistとして活動している。
これまでの著作に『新臨床内科学』（医学書院、2009年）、『What's New in Oncology』（南江堂、2015年）など。

河野 勤 こうの・つとむ

公益財団法人 佐々木研究所附属 杏雲堂病院 腫瘍内科／化学療法部
1970年大阪府生まれ。1996年名古屋大学卒。愛知県厚生連海南病院での研修を経て2000年、国立がんセンター中央病院内科レジデント。その後、同センター専門修練医を経て2005年乳腺・腫瘍内科医員。2008年日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医取得。2010年、杏雲堂病院 腫瘍内科医長。2013年より同院腫瘍内科科長、2014年より同院化学療法部部長兼務。専門は腫瘍内科学、緩和医療学。

越川房子 こしかわ・ふさこ

早稲田大学文学学術院 心理学教室 教授
1959年新潟県生まれ。1982年早稲田大学卒。1991年同大学大学院博士後期課程単位取得退学後、同大学助手、専任講師、助教授を経て2002年より教授。2014-16年文学学術院長・文学部長。2003年特別研究期間をマインドフルネス認知療法開発者のオックスフォード大学精神医学科教授Mark Williams博士のもとで過ごす。2013年より日本マインドフルネス学会理事長。専門は臨床心理学。
これまでの著作に、『マインドフルネス認知療法』（北大路書房、2007）、『うつのためのマインドフルネス実践』（星和書店、2012）、『マインドフルネス-基礎と実践』（日本評論社、2016）、“Horizons in Buddhist Psychology: Practice, Research & Theory. (Eds.) (A Tao Institute Publication, 2006) など。

近藤俊輔 こんどう・しゅんすけ

国立がん研究センター中央病院 肝胆臓内科
1974年徳島県生まれ。2000年徳島大学卒。2010年東京大学大学院医学研究科卒。2003年国立がんセンター中央病院内科レジデントを経て、2008年より同科スタッフ。専門は内科学、臨床腫瘍学。

笹良剛史 ささら・たけし

友愛会南部病院 麻酔科・緩和ケア内科 診療部長
1988年琉球大学医学部医学科卒、同大麻酔科勤務。1996年関東通信病院（現NTT関東病院）ペインクリニック研修。1997年琉球大学総合診療センターにて緩和ケアチーム立ち上げ。1998年カリフォルニア大学サンディエゴ校で脊髄障害の研究留学。2000年から琉球大学にて痛みに対する認知行動療法、マインドフルネスへ取り組み、2007年より現職。
専門は緩和ケア、ペインクリニック。日本麻酔学会指導医、日本ペインクリニック学会認定医、日本緩和医療学会暫定指導医、沖縄がん心のケア研究会世話人。

佐治重衡 さじ・しげひら

福島県立医科大学腫瘍内科学講座 主任教授
同附属病院 臨床腫瘍センター センター長
放射線医学県民健康管理センター 地域がん登録室 室長
1968年岐阜県生まれ。1992年岐阜大学医学部卒業。東京都立駒込病院、岐阜大学大学院、埼玉県立がんセンター研究所、カロリンスカ医科大学（スウェーデン）、東京都立駒込病院乳腺外科・臨床試験科、M.D.アンダーソンがんセンター（米国）、埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科、京都大学大学院医学研究科標的治療腫瘍学講座を経て2014年9月より現職。特に乳癌を専門とする腫瘍内科医として診療を行ないながら、ホルモン療法・分子標的治療に関する基礎・臨床・トランスレーショナル研究を継続している。
これまでの著作に『内科学 第10版』（朝倉書店、2013年）、『新臨床腫瘍学』（南江堂、2015年）。『最新 内分泌代謝学』（診断と治療社、2013年）など。

佐藤寧子 さとう・やすこ

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター
1966年新潟県生まれ。1989年聖路加看護大学卒。1995年聖路加看護大学大学院修了。2013年慶應義塾大学健康マネジメント研究科後期博士課程満期退学。聖路加国際病院看護部勤務の後、青森県立保健大学健康科学部看護学科精神看護学助教、日本看護協会認定部、慶應義塾大学看護医療学部精神看護学助教を経て、2008年に日本看護協会認定精神看護専門看護師資格取得、関東中央病院にてリエゾンナースとして勤務。2012年より現職である東京医療センターにてリエゾン精神看護専門看護師。専門はリエゾン精神看護学。

品田雄市 しなだ・ゆういち

東京医科大学病院 がん専門相談員
1973年埼玉県生まれ。2012年ルーテル学院大学大学院博士前期課程修了。現在同大学院博士後期課程在学中。1995年より東京医大病院に勤務し、現在は医療福祉相談係長。国立がん研究センター相談員研修講師を務める他、新宿区や東京都のがん対策推進関連の委員として、地域における包括的かつ効果的ながん患者支援体制作りにも携わる。社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員・認定医療社会福祉士。専門は医療ソーシャルワーク、がん・脳卒中・救命救急などの急性期におけるソーシャルワーク実践。「相談したら気持ち温かくなった」と患者さんに感じてもらえる相談支援を心掛けている。
これまでの著作に『医療福祉総合ガイドブック』（医学書院、2017年）など。

志真泰夫 しま・やすお

公益財団法人筑波メディカルセンター
1951年10月生まれ。1980年3月 東京医科大学医学部卒。千葉大学医学部附属病院での研修を経て、1982年国立がんセンター病院放射線診断部レジデント。1988年、国立療養所松戸病院放射線科医長、緩和ケア病棟医兼任。1992年国立がんセンター東病院緩和ケア病棟医長。2004年筑波メディカルセンター病院緩和医療科診療部長、2009年筑波メディカルセンター病院 副院長、2012年、公益財団法人筑波メディカルセンター理事、在宅ケア事業長。2016年、茨城県立つくば看護専門学校学校長と代表理事を兼務。専門は緩和医療学、サイコoncology。
これまでの著作に、『看取るあなたへ』（河出書房新社、2017）『専門家をめざす人のための緩和医療学』（南江堂、2014）などがある。

島田啓介 しまだ・けいすけ

桐生大学医療保健学部非常勤講師／翻訳家／ワークショップ・ハウスゆとり家主宰
1958年群馬県生まれ。上智大学中退。その後長期療養を経て、現在精神保健福祉士、カウンセリングルーム「歩く心の相談室」、ワークショップ・ハウス「ゆとり家」主宰、翻訳家。マインドフルネス瞑想実践と指導を行ない、各地で研修、講座、講演を実施。丹沢の里山で農業をベースにした自給的生活と、ワークショップを通じた体と心の癒やしの提供に取り組む。プラムヴィレッジ正会員。
これまでの著作に、翻訳書にティク・ナット・ハン著『今このとき、すばらしいこのとき』（サンガ、2017年）、『ブッダの幸せの瞑想』（サンガ、2016年）、『ブッダの〈呼吸〉の瞑想』（野草社、2012年）ほか、仏教、瞑想、心理、哲学関係書多数。
ゆとり家<https://www.yutoriya.net>

瀬尾卓司 せお・たくじ

国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科がん専門修練医
日本内科学会内科認定医、日本プライマリケア学会家庭医療専門医／プライマリケア認定医

高宮有介 たかみや・ゆうすけ

昭和大学医学部医学教育学講座 講師
1957年福岡市生まれ。1985年昭和大学医学部卒業後、昭和大学医学部外科学教室に入局。がん患者の苦痛緩和のために、1988年英国ホスピスで研修。緩和ケアを一生の仕事することを決意し、1992年昭和大学病院緩和ケアチームに専従。2001年昭和大学横浜市北部病院の緩和ケア病棟専従。2007年より現職。専門は緩和ケア、医学教育。大病院の緩和ケアを考える会代表世話人、日本ホスピス緩和ケア協会理事、日本緩和医療学会理事、日本死の臨床研究会常任世話人。
これまでの著作に、『がんの痛みを癒す』（小学館、1996年）。『成人看護学—慢性期看護緩和・ターミナルケア』（日本放射線技師会出版会、2007年）、『臨床緩和ケア 改訂3版』（青海社、2013年）。

恒藤 暁 つねとう・さとる

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻／京都大学医学部附属病院 緩和医療科
1985年筑波大学医学専門学群卒業後、1993年に英国St Christopher's Hospiceに研修。
淀川キリスト教病院ホスピス長、大阪大学大学院人間科学研究科 臨床死生学講座助教授、大阪大学大学院医学系研究科 緩和医療学寄附講座教授を経て、2016年より現職。
モントリオールで2008年に開催された国際緩和ケア学会において、Whole Person Careとマインドフルネスに出会い、その実践と教育に取り組んでいる。

朴 順禮 ぱく・すんれ

慶應義塾大学 看護医療学部 専任講師
2001年より慶應義塾大学看護医療学部助教、武蔵野大学心理臨床センター研究員を経て、2008年より現職。看護師・臨床心理士。
現在、看護学生の教育および慶應義塾大学病院緩和ケアチームのメンバーとして、外来がん患者へのカウンセリングを担当している。専門はサイコoncology、緩和ケア。

橋本一径 はしもと・かずみち

早稲田大学文学学術院 教授
1974年生まれ。東京大学文学部思想文化学科卒業。フランス・ナント大学理工学部DEA課程修了。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。愛知工科大学講師を経て、2012年より現職。専攻は表象文化論。これまでの著作に『指紋論——心霊主義から生体認証まで』（青土社、2010年）など。訳書として、J=N・ミサ、P・ヌーヴェル編『ドーピングの哲学』（新曜社、2017年）など多数。

藤澤大介 ふじさわ・だいすけ

慶應義塾大学医学部精神神経科／緩和ケアセンター専任講師
1998年慶應義塾大学卒。横浜市立市民病院、桜ヶ丘記念病院などを経て、2010年、国立がん研究センター東病院精神腫瘍科医長、2013年Massachusetts General Hospital精神腫瘍・行動科学部門研究員、2014年より現職。
専門はコンサルテーション・リエゾン精神医学、老年精神医学、認知行動療法。
これまでの著作に、『ミーニング・センタード・サイコセラピー——がん患者のための個人精神療法：人生の意味に焦点を当てた精神療法』（共訳、河出書房新社、2017年）、『がん患者心理療法ハンドブック』（共訳、医学書院、2013年）、『専門家に相談する前のメンタルヘルス・ファーストエイド——こころの応急処置マニュアル』（共訳、創元社、2011年）、『自分でできるマインドフルネス』（創元社）、『認知行動療法実践テキスト—基礎から応用まで』（共訳、星和書店、2015年）、『自傷行為救出ガイドブック—弁証法的行動療法に基づく援助』（共訳、星和書店、2011年）、『短期精神療法の理論と実際』（共訳、星和書店、2011年）など多数。

藤田一照 ふじた・いっしょう

曹洞宗国際センター
1954年、愛媛県生まれ。東京大学教育学部教育心理学科を経て、大学院で発達心理学を専攻。院生時代に坐禅に出会い深く傾倒。1982年、博士課程を中退し禅道場に入山、1987年、師の命を受けて渡米。以来17年半にわたってマサチューセッツ州ヴァレー禅堂で住持をつとめる。近隣の大学や瞑想センターでも禅の講義や坐禅指導を行う。2005年に帰国し、現在、神奈川県葉山を中心に坐禅の研究、指導にあたっている。2010年より曹洞宗国際センター所長。
これまでの著作に『現代坐禅講義—只管打坐への道』（佼成出版社、2012年）、共著に『アップデートする仏教』（幻冬舎新書、2013年）、『あたらしいわたし』、『安泰寺禅僧対談』（以上共著、佼成出版社、2012年）、『禅の教室』（共著、中公新書、2016年）、『〈仏教3.0〉を哲学する』（共著、春秋社、2016年）、『青虫は一度溶けて蝶になる』（共著、春秋社、2017年）、など多数。

藤野正寛 ふじの・まさひろ

京都大学大学院 教育学研究科 博士後期課程
日本学術振興会 特別研究員
1978年生まれ。2004年神戸大学経営学部卒業後、シスメックス株式会社で7年間経営企画管理の仕事に従事。2012年に京都大学教育学部に編入学。その後、京都大学大学院教育学研究科博士前期課程を経て、2014年より現職。専門は、瞑想の認知神経心理学。

村川治彦 むらかわ・はるひこ

関西大学人間健康学部 人間健康学科
1963年大阪府生まれ。1986年東京大学文学部宗教学宗教学史学科卒。カリフォルニア統合学大学院 (California Institute of Integral Studies) East-West Psychology修士課程を経て、2002年同大学院Integral Studies博士課程修了。2006年立命館大学非常勤講師、2008年関西大学文学部准教授を経て2014年より現職。専門は身体教育学、応用健康科学
論文として、『経験を記述するための言語と論理—身体論からみた質的研究』『看護研究』第45巻第4号324-336頁 (医学書院、2012)、『知の探求と『統合医療』におけるソマティクスの役割』『ソマティクス心理学への招待—身体と心のリベラルアーツを求めて』久保隆司・日本ソマティック心理学協会編33-44頁 (コスモス・ライブラリー、2015)、『アメリカのホスピス運動の歴史と現在—死のケアの最前線としての仏教系ホスピス』『ここケア』第9巻2号 124～131頁 (日総研 2006) などがある。

森 玄 もり・たかし

練馬光が丘病院 薬剤室
1973年京都市生まれ。1997年明治薬科大学卒。2003年山王メディカルプラザ薬剤室において化学療法に携わる。2005年国際医療福祉大学附属三田病院 薬剤部、2009年香雲堂病院 化学療法部などを経て、2014年より現職。また、2007年よりNPO法人 がん情報局 事務局長を務める。専門は乳がん化学療法。